医療法人財団友朋会
Yuhokai Medical Foundation

風だより

92

医療法人財団　友朋会　嬉野温泉病院

友朋会理念

『患者さんのために』

contents

1　目次
2〜3　アートセラピー美術館祭
4　創立53周年記念式典・合同慰霊祭
5　地域リハネット認知症研修会・地域連携室通信
6　朋寿苑関連記事
7　クリニック関連記事
8〜9　行事予定、行事報告・新任医師紹介
10　平成29年度DMAT・DPAT合同訓練
11　スポーツ外来を含むリハ科の紹介
12　理念・診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

第20回 アートセラピー美術館祭を開催しました！

平成30年3月3日（土）に第20回となるアートセラピー美術館祭を開催しました。今回は地元の学生さんや地域住民の方々を対象として、友朋会で取り組むアートセラピー（芸術療法）を体験して頂けるよう、6種目のワークショップを準備しました。実行委員会が中心となり、友朋会職員が協力して広報活動に取り組んだところ、地元の嬉野高校の生徒さんや佐賀・長崎両県の大学生、地域の方々など、総勢85名の方に参加頂くことができました。

ワークショップでのアートセラピー体験では、オリジナル作品の制作や参加された方との会話などを楽しんでおられました。また、佐賀新聞社の方も来院され、参加者の皆様が各ワークショップでアートセラピーを体験頂いている様子を見学し、ご自身もアートセラピーを体験されていました。

ここでは、各ワークショップの内容と参加頂いた皆様の感想を簡単にご紹介します。

○陶芸療法

粘土や紙粘土での器制作を体験して頂き、その後陶芸療法について説明させて頂きました。「アートセラピーの効果を知ることができた」、「自分の好きな形にして作れたので、楽しかった」などの感想を頂きました。
制作された作品は、焼き上げて参加された方へお渡ししました。

○音楽療法

2人1組に分かれて「ジェスチャー音当て」を行い、その後2グループに分かれて「音絵創作・発表」を体験して頂きました。「一体感があり、音楽を通して年代が異なる方達と楽しくコミュニケーションをとることができた」、「絵本に音が加わると感動が増した」などの感想を頂きました。

○絵画療法

マンダラぬりえという万華鏡のような模様のぬりえ作品の制作を体験頂き、制作後は額に入れて作品を並べて全員で作品を見ながら感想を共有しました。「自分と改めて向き合えた気分になった」、「色塗りに集中して取り組め、できた時の喜びなど全体を通して楽しかった」などの感想を頂きました。

○連句療法

3グループに分かれて連句創作を体験して頂きました。「相手を思いやりながら、意外にスムーズに作ることができ、時間を忘れて楽しめた」、「形式にとらわれず、自由に楽しくできた」などの感想を頂き、想像して作品を作る楽しみや他者と一緒に作り上げる楽しみなどを味わって頂きました。

○クラフト療法

レジンとアロマ石鹸の2種類のクラフトを準備し、参加頂いた方にどちらか一方を選んで制作して頂きました。「自分で形を考え、デザインをして、好きなものを作れて楽しめた」、「様々な方とお話ができ、笑顔でできた」など、創作活動や他に参加頂いた方とのコミュニケーションを楽しんだとの感想を頂きました。

○コラージュ療法

ウォーミングアップとして「ハニカムペーパーの鳥」を制作した後、前回好評だった「タンブラー・マグカップコラージュ」を体験して頂きました。「世界に一つだけの作品ができて感動した」などのご意見を頂くことができました。完成したタンブラー・マグカップは日常生活の中で活用できるように、お持ち帰り頂きました。

また、ワークショップ終了後は懇親会を開催しました。お食事やバイオリン・ピアノ・パーカッションによる演奏をお楽しみ頂きながら、ワークショップでのアートセラピー体験などについて意見交換する機会となり、参加して頂いた方より「食事がとても美味しく、目でも楽しめた」、「しっとりとした曲から楽しい曲まで会場一体となって楽しめた」、「いろいろな分野の人とコミュニケーションがとれて、楽しい時間を過ごすことができた」などの嬉しい感想を多数頂くことができました。

今回のアートセラピー美術館祭は、前回に引き続き定員を上回るお申し込みを頂き、多くの学生さんや地域住民の方々に参加頂くことができました。参加して頂いた皆様並びにイベント開催に当たってご支援・ご協力頂いた全ての皆様に、心より感謝申し上げます。参加頂いた方より「今行われているイベントを継続して欲しい」、「もっと他のワークショップにも参加してみたい」など、次回の開催を期待するご意見も多数頂いており、今後もイベント開催などを通じて、地元の学生さんや地域住民の方々にアートセラピーをはじめとした友朋会の取り組みについてもっと知って頂けるように、努めて参ります。

アートセラピー美術館祭実行委員会　運営委員長　正司 吏臣

創立53周年記念式典

平成30年4月7日(土)に当会の創立53周年を記念して式典を開催致しました。多くのご来賓の方々にご出席いただき、ご祝辞やお祝いのお言葉をいただきました。

また、永年勤続職員(10年勤続、20年勤続、30年勤続)が表彰を受賞し、勤続15年の意見発表においては、当会の歴史と発表を行う職員それぞれの15年間を重ね合わせて意見を述べられていました。

合同慰霊祭 バルーンリリース

理事長挨拶

病棟師長献花

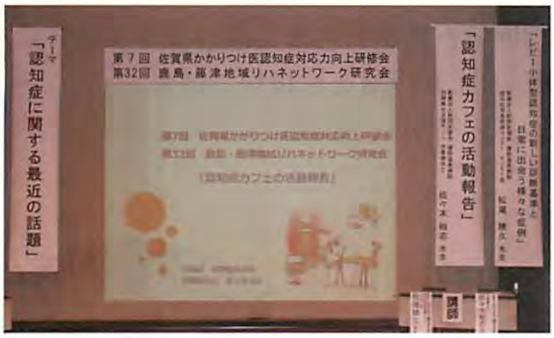
600個のバルーンをリリース

平成30年3月1日(木)、11:00より合同慰霊祭を執り行いました。

平成29年1月1日から12月31日までの間にお亡くなりになられた182名のご冥福をお祈りし、黙とうならびに献花を捧げました。

慰霊祭後、当院通所リハビリ前にて、バルーンリリースを行いました。手から離れたバルーンは、花の種をつけて空高く舞い上がりました。

第32回　鹿島・藤津地域リハネットワーク研修会
第7回佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会



平成30年3月15日に鹿島市生涯学習センター・エイブルにて「鹿島・藤津地域リハネットワーク研究会」及び「佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会」が開催されました。120名の方が参加されました。認知症疾患医療センター・センター長の松尾医師と作業療法士の佐々木が「レビー小体型認知症の新しい診断基準と日常に出会う様々な症例」、「認知症カフェの活動報告」について講演しました。講演ではレビー小体型認知症の診断として必須事項（注意や遂行機能、視空間能力の著明な障害など）と12項目（繰り返す転倒、過眠、嗅覚鈍麻、不安、うつなど）の支持的特徴があり、病態について詳しく説明がありました。また、認知予備能仮説の説明もあり、若い時より認知機能を鍛えておくと高齢者になっても高い認知機能を有しているそうで、身体運動や教育歴、仕事の複雑さ、病前のIQ、活発な余暇、認知機能を刺激する活動などが認知機能を低下させないためには良いといわれているそうです。具体的には足早に歩きながら計算をするなど異なることを同時にすると良いようです。認知症カフェに関しては、作られてきた理由・目的・内容について、詳しい説明がありました。カフェとはそのままの意味で、珈琲などをのみながら友人と語らう場です。地域や国で取り組み方は様々で、目的も色々ですが、共通して言えるのは「認知症の人と家族のことを第一に考えてつくられた集いの場」ということです。また、期待されている事として「居場所」「認知症の理解」「仲間作り」「早期発見」「サービスへ繋がる」ことがあると話されました。認知症疾患医療センターで実施している「おれんじカフェ・ゆ～とアート」の状況も含めわかりやすく説明がありました。

今回の研修を通して「診断」、「予防」、「支援」と認知症をとりまく環境がより充実した体制になってきていることを感じました。予防に関しては40代からの取り組みが重要との報告もあり、私自身も含め認知予備能を高めていかなければならないと思いました。

作業療法士　阿部数也

地域連携室通信

皆様いかがお過ごしでしょうか？今回は初診時の診察までの流れについてご紹介致します。当院では、初診の際、診察前に「予診」を実施しております。

予診とは？

診察前に相談員より30分程度お話を伺わせて頂きます。
その中で、主訴（相談内容）、生活歴などについてお伺いし、医師の診察が円滑に進む事を目的で行っております。診察前にリラックスして頂き、相談内容の整理が出来るように心がけています。また、ご高齢の方や、物忘れなどが気になる方は、その中で簡易的な検査を実施させていただく場合もございます。その他MRI検査等を希望される場合は事前にご相談下さい。初診の際は、予診、診察、検査等を含め、2～3時間ほどお時間がかかる場合がございますのであらかじめご了承ください。

その他、不明な点や気になる事がある場合は精神科地域連携室までご相談下さい。

精神科地域連携室　相談員（精神保健福祉士）／（代）0954-43-0157　（内線）1024、1025

介護老人保健施設

朋寿苑

TEL 0954-42-2900 / FAX 0954-42-2907

医療法人財団 友朋会の老人保健施設 朋寿苑では、家庭的な雰囲気と利用者さまの個性尊重を第一に、きめ細かなケアプランにそった介護と多彩な生活機能訓練によって、家族復帰を目指しています。朋寿苑は、毎月いろんな行事を開催しており、ここでは平成29年10月～平成30年3月に開催しました行事の一部をご紹介したいと思います。

ミニ運動会

はっぴぃ♥かむかむ

利用者の皆さんと一緒に苑内でミニ運動会を開催しました。午前中は、2チームに分かれ、輪投げと玉入れのチーム競技を行いました。午後からは鹿島にわか一座の『はっぴぃ♥かむかむ』さんに来苑して頂きました！華やかな衣装で、踊りに歌におおいに盛り上がりました。

焼き芋

ほっくほく

11月には、焼き芋会を行いました。たき火を囲み、「昔も焼き芋ばしよったですか？」と聞くと「昔は芋ばっかい食べよったー」「芋しかなかったけんねー」「そがん(アルミに)包まんで放り込みよったー」などと思い出話に盛り上がりました。屋外は肌寒さがありましたが、たき火を囲み、ほかほか焼きたてのお芋を食べて寒さも忘れられる時間となりました。

クリスマス会

クリスマス会では嬉野讃歌エコーズの皆さんに美しい歌声を披露していただきました。ある利用者さまは、感動のあまり涙ぐまれていました。また入所者の皆さんで松ぼっくりに、リボンや色とりどりの飾りを付け、ツリーの置物を作りました。細かい作業に皆さん集中して、お互いの作品を見ながら「きれかねー」「よう出来とるね」など笑みがこぼれていました。

初詣

福笑い

朋寿苑では、朋寿苑神社を建立し、入所者の方々がそれぞれに願いを込めてお参りされていました。また福笑いもしました。目隠しをしていただき、ひょっとことおかめの顔に目や鼻を貼っていきます。「もっと右！」「左！左！」と他の利用者さんの助けもあり個性的なひょっとことおかめが完成しました。できあがった顔を見て、皆さんで大笑い！今年の初笑いとなりました。

ものわすれメンタルクリニックアートリハで実践している認知症高齢者への芸術療法のご紹介

すでにご存じの方が多いかと思いますが、アートリハの概要とそこで提供している芸術療法についてご紹介させて頂きます。

通所リハビリテーション アートリハ（デイケア）

介護保険の通所リハビリテーション事業（以下ＤＣ）として運営しています。現在、年間延べ８０００名程度利用されています。

1）ＤＣ職員の構成

医師、看護師、作業療法士、介護福祉士、音楽療法士、介護職員が在籍し、一日当たり7～8名前後の多職種チームで対応を行っています。

2）ＤＣのプログラム内容

（1）健康管理：体温・血圧・脈拍測定を行う。連絡ノートより食事・排泄の状況、睡眠状態など自宅での状況について情報収集を行い、健康状態を把握します。

（2）朝の集い：現実見当識（ＲＯ）を高めることを目的に行いますが、日付の確認や季節を感じられるような話題を提供したり、回想法的に過去の出来事や有名な行事などを取り上げ、約３０分間話をします。このＲＯ的な活動を、いかに軽症認知症の方に心理的負担をかけない工夫を凝らして施行できるかがポイントになります。

《芸術療法について》

ＤＣのプログラムの中でも、中心的な役割である芸術療法を紹介します。

手ロクロを使用し“手びねり”の技法を用い、湯のみ、茶碗、花瓶、動物や人形などの興味があるものを自由に制作してもらいます。状態に応じて、様々な援助を行います。また電動ロクロを用い、器などの作陶を行うケースもあります。

クレパスや色鉛筆、水彩絵の具などを用い、模写、写生、なぐり描き、塗り絵、回想法的な絵画制作、トレースなどを希望や状態に応じて行っています。

トレースとはトレーシングペーパーを使用した写し絵のことです。見本となる写真等の上にトレーシングペーパーを置き、鉛筆などでトレーシングペーパーに輪郭を写しとり、その後に色鉛筆などで色を塗って仕上げる手法です。絵画活動は、人によって好き嫌いがはっきりしている中で、塗り絵は稚拙であるというイメージのため、制作を嫌がられることがあります。しかし、トレースであれば、稚拙なイメージもなく、輪郭を写し取ることで出来栄えがよく見える、取り組みやすい作画方法と言えます。慣れてくれば、トレーシングペーパーを使用せずに画用紙への作画が可能となる場合があります。

3.音楽療法

音楽療法士を中心にスタッフが交代で療法を担当しています。キーボードを使用し、唱歌、流行歌、民謡、童謡等を歌ったり、楽器を持って演奏を行います。また、その歌の時代背景について話を行うことで、利用者同士や職員と利用者の会話が促進され、時には集団での回想法的な場面が生じます。

4.芸術療法が認知症高齢者へもたらす効果

対象者は創作活動を楽しみながら主体的に行います。その過程で作業工程の理解や手法など新たな能力を獲得します。このプロセスはスキル学習として捉えることができます。また、創作活動や作品を通して自然な形でのコミュニケーションが生まれ利用者同士の交流が深まります。このような交流が継続すれば、馴染みの関係へと発展します。さらに、創作場面で本人が抱いた感情やイメージ、作品が完成する達成感や喜び、時に語られる物語（自分史）をスタッフが傾聴・共感・支持的対応などの治療的アプローチを行います。このことは、心理的安定やＢＰＳＤの緩和へとつながるのではないかと考えています。

このようにDCで芸術療法を実践し、認知症高齢者の在宅生活を支援しています。

行事予定・

2月

・節分
（西１、南西１、南２、南３、朋寿苑、通所リハビリ）

・和菓子体験
（中央１）

・梅林見物

千寿荘、寿作品展示会

中央１和菓子体験

3月

・作品展示会
（千寿荘、寿Ａ・Ｂ）

・花見
（西１、南西２、朋寿苑、千寿荘、寿Ａ・Ｂ）

・足湯・散歩
（西２）

・ひな祭り
（リカバリー、通所リハビリ、朋寿苑、南西１）

・合同慰霊祭

南西２花見

4月

・花見
（南西１、南３、リカバリー、通所リハビリ、孝心の里）

・認知症カフェ

・施設見学
（西１病棟）

・創立５３周年記念式典

認知症カフェ

5月

・そば打ち大会
（南３）

・日帰り旅行
（千寿荘）

・菖蒲見物
（南西１）

・社会見学
（リカバリー）

・レクリエーション大会
（西１、西２、中央１）

レクリエーション大会食事風景

南３そば打ち大会

行事報告

6月

- 蛍見物
  （南西1、南西2、南3）
- 認知症カフェ
- 森林浴
  （西1、リカバリー）

7月

- 七夕会
  （西1、西2、西5、南2、中央1、リカバリー）
- 認知症カフェ
- 院内研修会
- 避暑
  （西1、孝心の里、南3）

新Dr.の紹介

精神科医　福地(ふくち) 絢子(じゅんこ)

本年度より精神科医として赴任しました福地と申します。佐賀大学出身です。

できるだけ早く経験、知識を積んで皆様に貢献したい所存ですので、何卒よろしくお願い致します。

嬉野に住むのは初めてですが、のどかな風景に癒されて、気持ちが穏やかになれたようです。さらなる癒しを求めるべく、温泉や食事処などもっと知りたいので、何でも気軽に話しかけてもらえると嬉しいです。

平成29年度九州・沖縄ブロックDMAT・DPAT実働訓練が行われました

1月27日(土)平成29年度九州・沖縄ブロックDMAT・DPAT実働訓練が行われました。DMATとDPATが合同で訓練を行うのは九州では今回が初めてで、佐賀平野北緑断層帯を震源とする地震が発生し、杵藤地区で大規模震災が発生したという想定で訓練が実施されました。当院は崖崩れや病棟倒壊の恐れが生じた被災病院という設定で、DMAT10隊、DPAT3隊が参集し、災害本部の立ち上げ、被災患者60名のトリアージ(緊急度での優先順位付け)、他医療機関への搬送などの訓練が実施されました。

合わせて当院の災害本部も立ち上げられ、災害対策マニュアルに沿って106名の職員が参加し院内訓練を実施しました。今回は役割を表示したカラービブスを着用した事でそれぞれの役割が認識しやすくなり、また、災害対策マニュアルを見直す良い機会になりました。

災害はいつ起こるか予測できないからこそ、平時での準備・訓練が重要です。訓練だからと思って行動するのではなく、実際の災害時にはこれが必要だ、このように動こう、という気付きを得られた訓練でした。

※DMATとは、災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急医療を行うための専門的な医療チーム

※DPATとは、災害の後に被災者及び支援者に対して、こころのケアといった精神科医療及び精神保健活動の支援を行うための専門的な精神医療チーム

トリアージ

他院への搬送

リハビリテーション科

リハビリテーション科は嬉野温泉病院の内科病棟である東病棟へ入院されている方々を中心に**身体的なリハビリテーション**※**を提供している**部署です。現在、理学療法士(以下、PT)１５名、作業療法士(以下、OT)８名のメンバーで頑張っています。

内科病棟入院中の方へのリハビリの他、外来で来院された方へのリハビリも積極的に実施しています。平成２８年７月からは当院にて「スポーツ整形外来」も開設され、それに伴い**スポーツリハビリ**も開始しています。

※身体的なリハビリテーションとは？

脳卒中や大腿骨頸部骨折などの骨折後、呼吸器疾患や難病、廃用症候群などにより身体機能が低下した患者さんの機能回復のための運動や動作訓練を行うことで、日常生活動作の改善や在宅復帰などを目指す包括的なアプローチです。

【取得している施設基準】

- 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- 廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ)
- 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)

❶入院・外来リハビリテーション

当科の特徴は**リハビリスタッフの多さ**と**充実したリハビリの環境**です。リハビリスタッフは言語聴覚士(以下、ST)も合わせて総勢27名であり、回復期に該当する患者さんでは特に３職種(PT・OT・ST)が担当になることもあります。機能回復にとって重要な時期に十分なリハビリを提供できる環境が整っています。今年度からは呼吸器リハビリテーションの基準も取得し、疾患特性に合わせた専門的なリハビリテーションが可能な体制を整えることができています。当院の内科入院病棟の特徴から、医療的管理が必要な患者さんも多く入院される中で、様々なリスク管理をしながら身体機能をより良くしつつ、日常生活動作の獲得を目指しています。特に、「患者さんのために」という理念のもと“患者さんらしさ” を獲得するというリハビリテーションの大きな目標に向かってリハスタッフ一同、日々研鑽しながら取り組んでいます。充実した新人教育システムや科内研修体制の構築、パートナー制度を活用した職員間コミュニケーションの促進などスタッフが働きやすい環境作りにも力を入れて取り組んでいます。そういった職場環境の中で、より良いリハビリを患者さんに提供することができていると考えています。

❷スポーツ整形のリハビリテーション

当院ではNPO法人スポーツメディカル理事長 及び さかえまち整形外科院長角田憲治医師による診察を月１回(第１土曜日)行っています。スポーツによって生じた怪我や障害は各選手によって個人差があり、一人一人の症状に合わせ治療を行っています。スポーツリハビリの現状として野球部に所属している小中学生が主体ですが、野球以外のスポーツや高校生・成人も対象です。院外活動として小中学校へのトレーナー活動などの地域貢献活動や研修会への参加も積極的に行っています。スポーツリハビリが開設され１年弱ですが、各スタッフが自己研鑽に励み、スポーツリハビリに対する意識を高めています。スポーツリハビリは怪我や障害を治療するだけではなく、怪我によってプレーできない悩みや不安に対するメンタル面でのケアが必要です。また選手本人との関わりだけではなく、保護者やチームの監督などと話し合うことで、スポーツリハビリが選手に対して良い方向に向かう道標になれればと考えています。全国的に小中学生の全身的な柔軟性が低下している現状があり、柔軟性低下は怪我や障害を来す一要因となります。怪我をしてからではなく、怪我をする前に予防することも大事なことです。痛いところがある方、身体に気になるところがある方、スポーツに関わる方であれば誰でも受診が可能です。

外来訓練についてのお知らせ

入院のリハビリテーションの他に外来でもリハビリテーションを実施しています。外来訓練の開始については受診予約をして、当院内科外来(月～金)及び整形外来(木のみ)、スポーツ整形外来(第１土曜日　※外来日の変更は不定期でありますのでご了承下さい)の受診が必要となります。外来訓練は、基本的に土・日・祝日を除く月曜から金曜まで(午前8時30分～午後5時)実施しています。予約の窓口は下記の通りです。

● 東病棟地域連携室　TEL：0954-43-0255

文責：リハビリテーション科　南修平

友朋会理念 『患者さんのために』

基本方針

1 患者さん一人ひとりの立場になって、提供すべき医療を考え、実践する
2 在宅での生活を目指した医療・看護・介護・リハビリ・福祉を実践する
3 創設時から継続されている退院支援・生活支援・就労支援の更なる充実のために地域包括ケアシステム・地域医療構想の視点を加える
4 芸術療法的な治療空間・アメニティーを重視し、芸術療法を治療技法として高める
5 医療安全対策・感染予防対策・精神科医療事故防止・防災対策・防火対策など総合安全対策体制を確立する
6 地域医療機関との連携や役割分担による医療を実践する
7 地域において認知症疾患医療センターを軸にリーダーシップを発揮する
8 児童思春期精神医療を実践し、地域の子どもたちの健やかな成長に寄与する
9 安全で質の高いチーム医療を実践し、地域の医療・福祉の向上に貢献する
10 医療従事者として自己研鑽に精励する

職業倫理に基づく行動指針

1 患者さんの自己決定権を尊重する
2 患者さんが自己の情報を知る権利を保障する
3 患者さんがセカンドオピニオンを求める権利を保障する
4 患者さんに安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
5 患者さんに医療的な説明を十分に行う
6 患者さんに治療に関する同意を確実に得る
7 患者さんの「基本的人権」を保障する
8 患者さんの尊厳を保つ
9 患者さんの終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
10 患者さんの個人情報を守る

診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

＊診療時間
◎月曜～金曜
◎午前の部／8:30～12:30
（第１土曜　8:30～12:30）
◎午後の部／13:30～17:00
※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

＊休 診 日
◎第2・3・4・5土曜、日曜、祭日
年末2日、年始3日間

＊予約診療
◎待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。

＊眼科の診療時間
◎月曜日 午後のみ13:00～17:00
◎水・金曜日 午前10:00～12:30
午後13:30～17:00

診療科		月	火	水	木	金	土	備考
精神科	新患	吉本静志 中山 享 前田直子	吉本静志 渡邉 至 PM 中山	光吉幸次 渡邉 至 菅高一博	田中邦宏 三根禎行 奥 栄作	冨松眞之 松尾勝久 PM 三根		
精神科	再来	冨松眞之 松尾勝久	奥 栄作 田中邦宏 前田直子	吉本静志 中山 享	中山 享	菅高一博 三根禎行 渡邉 至	予約者のみ	
精神科	専門外来	精神科一般、ものわすれ、児童思春期、うつ病メンタルヘルスなどご希望がありましたら、ご相談ください。						
内科		―	竹下吉明	岡本純明	林原歳久	榎真佐史	非常勤医師	
泌尿器科		倉冨一成	江原 孝	倉冨一成	江原 孝	倉冨一成	予約者のみ	午後は事前連絡
眼科		﨑戸晶子（13時～）		﨑戸晶子（10時～）		﨑戸晶子（10時～）		（月）午後 13:00~17:00 （水・金）午前 10:00~12:30 午後 13:30~17:00

日本医療機能評価機構
認定第 MB24 号

医療法人財団 友朋会
〒843-0301
佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919
電話：0954-43-0157
FAX：0954-43-3440
E-mail：info@yuhokai.com
URL：http://www.yuhokai.com/

施設	電話
嬉野温泉病院	0954-43-0157
認知症疾患医療センター	0954-43-0003
リカバリーセンター「ほほ笑み」	0954-43-0194
ゆうほう会　通所リハビリ	0954-43-0233
介護老人保健施設　朋寿苑	0954-42-2900
友朋会介護サービスセンター	0954-20-2531
グループホーム　千寿荘	0954-43-0157
就労支援センター「希望」	0954-43-0249
地域連携室	0954-43-0255
小規模多機能ホーム「孝心の里」	0954-43-7550
ものわすれメンタルクリニック 〒815-0082 福岡市南区大楠２丁目１５－２８	092-534-5151